

## Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会 技術作業班（第4回）議事要旨

1. 日 時： 令和3年7月6日（火）13:30～14:45
2. 場 所： ウェブ会議（WebEx）
3. 出席者：  
中村主査（NTT ドコモ）、  
ビジョン作業班 小西リーダー（KDDI）、永田サブリーダー（NTT ドコモ）、  
技術作業班 中村リーダー（富士通）、下西サブリーダー（NEC）、  
WP5D 対応 Ad hoc 菅田主査（KDDI）、武次副主査（NEC）、  
ほか、通信事業者、メーカ等、計 64 名  
（事務局）総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室  
井出室長、江原課長補佐、丸橋係長、守屋係長、杉山官

### 4. 議事要旨

冒頭、会議開催に先立ち、中村リーダーから挨拶があった。

#### （1）前回会合（第3回）の議事要旨について

事務局から、資料1 技術作業班第3回議事要旨について説明。修正があれば、7月8日までに事務局へ連絡してほしい旨説明。（追記：結果的にコメントはなかったため、原案で承認。）

#### （2）提案各者の説明について

8者からのプレゼンテーションを実施。質疑応答は（3）ディスカッションにて実施した。

- ① 日本電気株式会社 下西氏
- ② KDDI 株式会社 高木氏
- ③ 華為技術日本株式会社 朱氏
- ④ ソフトバンク株式会社 横田氏
- ⑤ 富士通株式会社 武智氏
- ⑥ 株式会社NTTドコモ 須山氏
- ⑦ スカパーJ S A T株式会社 鈴木氏
- ⑧ エリクソン・ジャパン株式会社 本田氏

(3) ディスカッションについて

(2) 提案各社の説明について質疑応答を実施。内容は以下のとおり。

●読者層について

下西サブリーダー：読者層として、産学官の学を意識すると良い。大学の教授や学生に読んでもらい、興味を持ってもらうことが大切ではないか。

中村リーダー：学に対して、どのような視点やメッセージを考慮すると興味を持ってもらいやすいと考えるか。

下西サブリーダー：例えば、学生が研究課題テーマとして設定するような項目は如何。

中村リーダー：承知した。

富士通武智氏：第1回白書分科会で設定された三つの目的である、①6Gの要件と技術を明確化、②国際的なイニシアティブの獲得、③産業界への有益化があるが、①の場合、我々5G関係者、②の場合、グローバルな同業者、③の場合、パーティカルなユーザーが読者として想定される。弊社としては、③を焦点にした。

中村リーダー：読者層を限定する必要はないものの、焦点がぶれないように広い範囲かつ焦点を絞れると良い。

●白書の範囲について

NTTドコモ須山氏：5GMFで5Gホワイトペーパーを作成した時は、ネットワーク委員会、アプリケーション委員会、技術委員会に分かれて検討した。今回は、ビジョンと技術の二つのみである。アプリケーションというのは、技術側が書くのが適切だと思うが、ビジョンの考えるアプリケーションとどのようにマッチングするかを考慮する必要があると思う。アプリケーションに必要な技術を書くのは賛成。

中村リーダー：お見込みのとおり、最終的にはアプリケーションに必要な技術を書く予定。専門家がない中で、実際にどのように書くかは検討が必要。

下西サブリーダー：アプリケーションとプラットフォームの切分けが将来変わってくるかもしれない。今はアプリケーションでも、将来的にはプラットフォーム側に変わっている場合もある。切れ目がどう変わっていくかの議論する必要がある。分散AIを支えるプラットフォームとして、アプリケーションのことをよりよく連携することでインフラはもっとよくなる。アプリケーションのことを意識したインフラという2点でアプリケーションとした。

中村リーダー：ビジョン作業班との棲分けを考えなければならない。最終的には、ビジョン作業班と整合性を合わせる必要があるが、時間も限られており、できる作業から始めたい。技術作業班で、ある程度想定して作業を進めていきたい。

小西リーダー：多くの業界から意見を出してもらっている以上、平行でやらざるを得ない。理想は全ての要求条件をまとめることだが、難しい。ビジョン作業班も多くの業界から要求条件を出してもらい、出てきた内容を技術側に落とし込む作業が必要になる。その際は、ビジョン作業班だけでなく、技術作業班からも意見を出してほ

しい。明確に線引きができない中で相談しながら進めたい。

永田サブリーダー：技術リストとユースケースのマッピングはどこまで行うか。技術とユースケースの組合せを考えると多岐に渡り、また、将来的に変動する可能性があるため、難しい。技術リストの作成のみでも十分だと思うが、技術リストに対するユースケースのマッピングの目的と実現性は如何。

中村リーダー：技術リストの作成は絶対ではない。一方で、高速伝送や低遅延など定量的な技術項目もあるため、ビジョンからの項目が上がってきた時に、項目として用意しておくのとマッピングしやすい。あくまで白書の作成方法の一つとして提案した。

永田サブリーダー：3GPPでも、技術候補を出すときには、明確に技術内容を提示していない。組合せが多岐に渡り、様々な技術が寄与するため、技術とユースケースを結びつける必要はないのではないか。

中村リーダー：あくまで一つの意見だが、3GPPと違い、白書では、技術との組合せによって実現可能性を提示してもよいと思う。

#### 4. その他

中村リーダーから白書の作成方法について説明。中村リーダーと下西サブリーダーで目次案のたたき台を作成予定。7月12の週内にメーリングリスト経由で周知し、7月27日（火）に議論する予定。

事務局から次回会合の予定について説明。7月27日（火）15:00から第5回技術作業班会合を第4回白書分科会と合同開催予定。

以 上